琉球大学学術リポジトリ

タコは単独性か？～熱帯性タコ類の空間分布パターン

メタデータ	言語:
	出版者: 琉球大学21世紀プログラム
	公開日: 2007-07-10
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 金子, 奈都美, 池田, 譲, Ikeda, Yuzuru
	メールアドレス:
	所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/803

PS-9　タコは単独性か?～熱帯性タコ類の空間分布パターン

金子　奈都美[1)]・池田　譲[2)]

[1)]琉球大学大学院理工学研究科,
[2)]琉球大学理学部

多くのタコ類は明瞭な群れを作らないことから、一般に単独性と考えられてきた。本研究では、タコ類の生息する環境と空間分布パターンに着目し、特定の領域において個体群がどのように分布しているかを調査し、このようなタコ類の出現が底質環境と関連があるかを検証することを目的とした。

2004 年 11 月から 2005 年 2 月までの期間、大潮の夜間干潮時に沖縄本島南部の大度海岸にてタコ類の野外調査を行った。6 人の採集者がランダムに 200 m 四方の調査区内を 2 時間歩きタコ類を採集した。採集した種を同定し、採集場所の位置を GPS で記録して地図上にプロットした。空間における分布パターンは Morisita's index (I_δ) および Eberhardt's index (I_E) を算出して評価した。また、調査区内に 50 m 四方の 4 つのサブサイトを設け、サブサイトごとにラインインターセプト法を用いて底質環境を調査した。

調査区内からは、同時に 8 種のタコ類（*Octopus laqueus*, *O. ornatus*, *O. aspilosomatis*, *O. luteus*, *O. cyanea*, *Octopus* sp. A-B, *Hapalochlaena lunulata*）が採集され、種によって異なる分布パターンが認められた。このうち 7 種については特定の場所に集中して出現することはなかったが ($I_\delta \leq 1.000$)、ソデフリダコ *O. laqueus* は集中的な分布を示した（I_δ=1.16、p=0.055）。この種は本調査区において優占的に出現し、同時系列における個体間距離からも集中的な分布パターン（I_E=1.78、2.36 ; p<0.005）を示すことがわかった。本種は、その出現と底質環境とに相関がなく（r<0.6)、飼育下において餌に対する顕著な嗜好性も見られないことから、何らかの相互誘因性が個体間に働き集団を形成している可能性があると考えられる。本調査の結果から、熱帯沿岸海域において異なる分布様式を持つ 8 種のタコ類が同時期に同所的に分布していることが明らかとなった。また、これまでタコ類において報告例のない群れ形成の可能性についても示唆された。